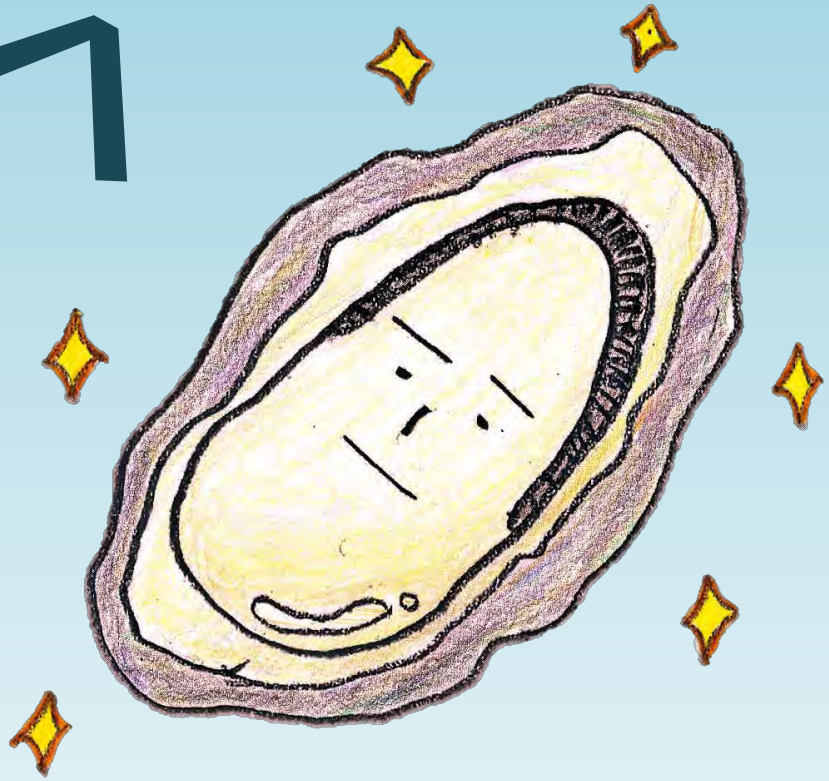
これぞ海の宝

カキがもつ凄いカ！



大阪市立築港中学校
海遊館・野鳥園連携授業チーム

カキがもつ凄い浄化能力

カキは水中のプランクトンや有機物をろ過して食べるろ過食者である。

カキ（牡蠣）は１個体（殻付き１００g）で１時間に約１０Lの海水をろ過するといわれる。

カキがそんなにたくさんの量の海水をろ過していたなんて知らなかった。

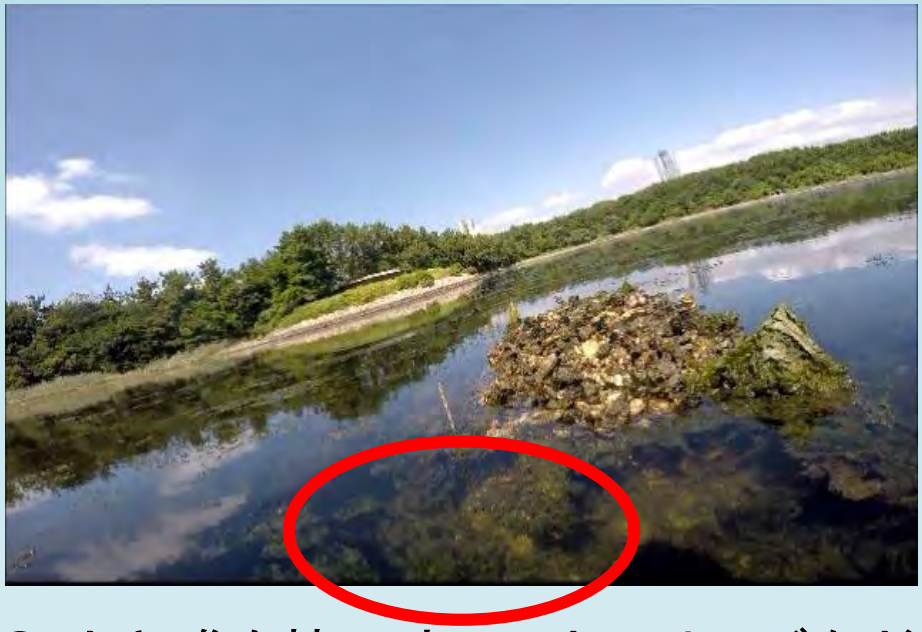
カキが育つ海が豊かな海だという意味がわかった気がする。

南港野鳥園の現状は・・・

大阪南港野鳥園は、おもに大阪湾岸一帯に生息する水鳥を中心とした野鳥の保護を目的として設置された **人工の干潟** である。それゆえ、人が手を加えないと維持していくのが難しい。

渡り鳥の餌場となる干潟が、自然発生したカキの群体に覆われて、**小さな渡り鳥が干潟の表面をついばめなくなっている。**

カキ礁の作製とその効果



◎ カキ礁を棲み家に、カニやエビなどがたくさんいるのが確認できた。
◎ 魚の群れも確認できた。（産卵場所としていると考えられる。）
◎ 水上部分では大型の渡り鳥の休憩場所や餌場として利用していることが確認できた。

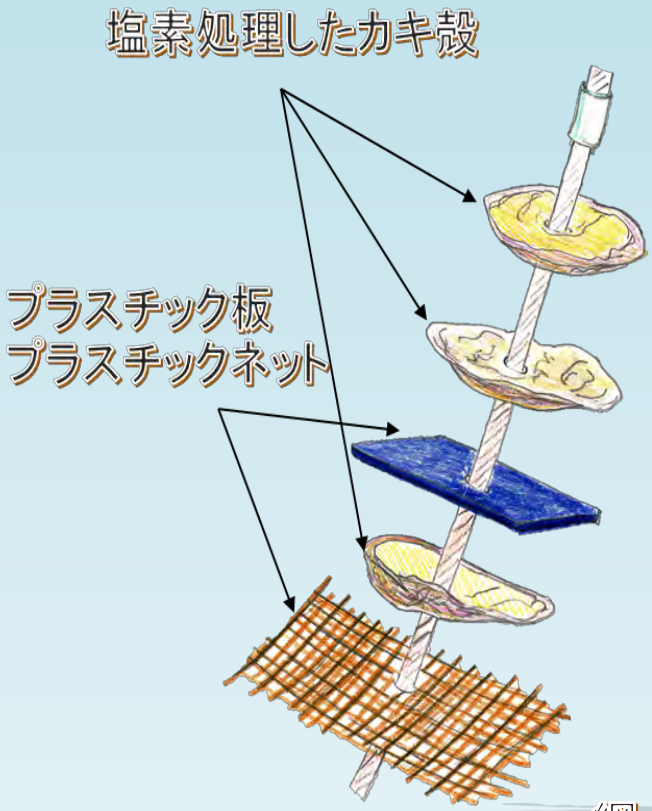
カキがもつ凄い活用能力

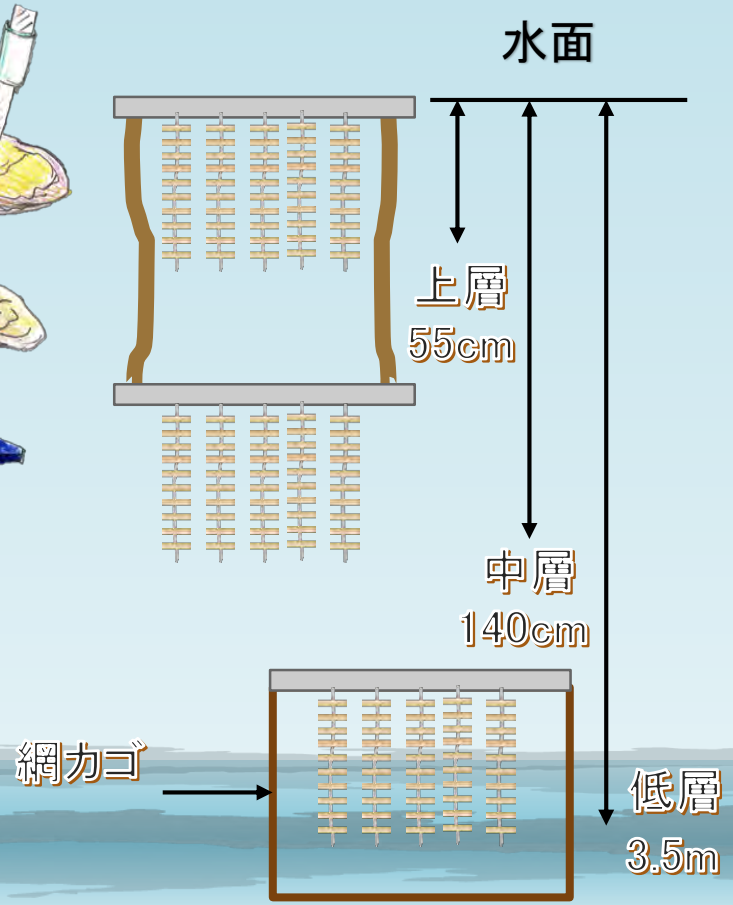
以前は、網カゴを海遊館岸壁底に沈めて、定期的に生物を採取していたが、今回から、カキ殻を生き物が付着できる『付着基盤』として活用することにした。

カキ殻を活用した付着基盤の作製

- 50cmのロープ1本につき、10個の付着基盤を繋いだ。
- 水面からの深さが55cm、140cm、3.5mとなるように調整した取付台に固定した。

付着基盤のしくみ





付着基盤を利用した生物の採取結果とカキ殻を用いたことによるメリット

オショロミノウミウシ
（体長7mm程）

◎ 以前と遜色ない生き物の種数が確認できた（およそ50種）。

◎ カキ殻に小さなプランクトンが吸着し、それを餌にする生き物が集まるというサイクルができつつある。また、周辺の海水浄化の役割も果たしているものと考えられる。

◎ 基盤の設置する高さを変えたことで、採取される生き物の特異性を確認することができた。

◎ 付着基盤を間近で観察できることで小さな生き物も発見・採取することができるようになった。

まとめ

◎　カキやカキ礁が野鳥園に生息する生き物にとって有用な存在であることがわかった。カキは他の生き物にとってまさに海の宝！

◎　カキを通じて、南港野鳥園が人の手によってその環境が維持されているものだということがわかった。カキは私たちに環境を教えてくれた、まさに海の宝！

◎　カキ殻を活用した付着基盤が、生物の採集をより便利にし、海水浄化に利用可能なことがわかった。

◎　カキの様々な力を知ることができた。

カキって凄い！！